



あいさつする小林会長

自主福祉活動の推進に意欲

新年度活動方針決める

富士宮地区労福協が総会 役員も改選も

富士宮地区労働者福祉協同会（小林純一会長）の2020年度第55回総会が17日、クリスタルホールパテオンで開かれた。任期満了に伴う役員改選が行われ、坪井真司副会長をはじめとする新役員の就任を承認し、本年度の活動方針・予算、メイン・サブスローガンを審議・決定。今後一層の自主福祉活動の推進に向け気持ちを一つにした。

あいさつした小林会長は「新型コロナウイルス感染症に対して労働者や勤労者の集まり

で、勤労者の福利厚生を考えたとき、マスク着用、手洗い・うがい、3密を避けるなどの自助、マスクを着け人に移さない、国や会社の通達に対してルール・マナーを守るなどの『共助』と、日頃から労福協が言っている『自助・公助・共助』がわれわれにできる最小限のこと」と話しながら、「この『共助』という中、子供たちを中心とした55周年の野外イベントを計画している。労福協は労働団体または勤労者の集まり

本年度の活動方針では、「本年度は新型コロナウイルス感染症という新たな脅威に向き合うことになるが、このような時代だからこそ労福協の掲げる『共助の心』の必要性に層注目が集まるものと考え、富士宮地区労福協に集う勤労者の福祉

向上と福祉事業団体の育成強化を目指して、労働組合、互助会、親睦会、従業員会、福祉関係団体の協力と参画の下、活動を進めていく」とした上で、基本理念と運動の原則、具体的な活動方針を決定。また、メインスローガンを「すべての働く人の幸せと豊かさを目指して 連携・協同で安心・共生の福祉社会をつくらう!!」と定めた。